



# 学校だより

1月号  
横浜市立桜台小学校  
令和6年1月9日発行



HPはこちらから

## 凸（でこ）と凹（ぼこ） ～相手意識を育む～

校長 小宮 健

令和6年（2024年）が幕を開けました。

保護者・地域の皆様、本年も本校の教育活動にご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

今や正月の風物詩となった箱根駅伝。今年も熱き競走が繰り広げられました。全国的に有名な『花の二区』の走路が学区のすぐ近くということで、第100回大会の記念に観戦しようと思い立ちました。せっかくなので柴副校長を誘って、一緒に桜台小近くの沿道で選手たちの勇姿に声援を送りました。応援しに来た本校の子供たちから道すがら笑顔で声をかけられ、新年早々うれしくなりました。

鍛錬された選手たちが、前を見据えて颯爽と駆け抜ける——あっという間の時間でしたが、感激したと同時に身が引き締まる思いがしました。

改めて『花の二区』の由来について調べてみたところ…

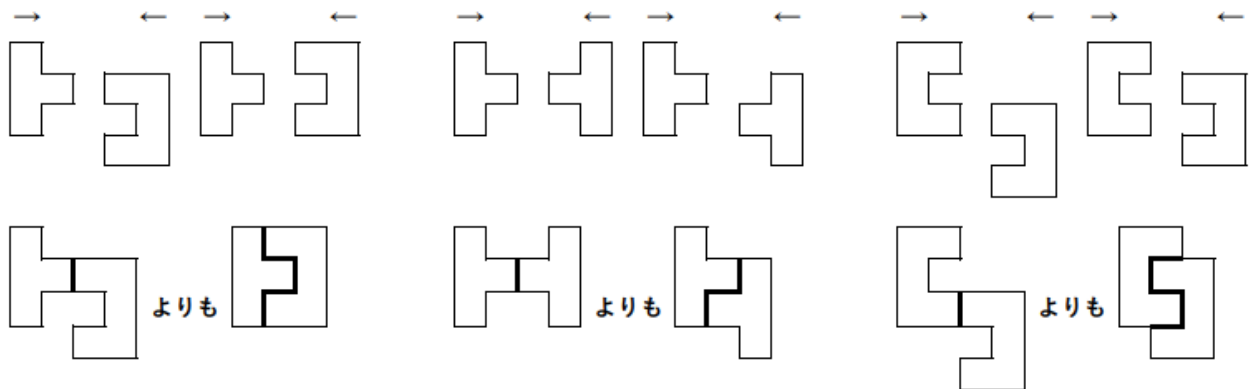
- ① 1区を走ってきた選手の流れを引き継ぎ、その後のレースの流れを決める重要な区間である。さらに、往路最初の難関となる「権太坂」があり、最後の3キロのアップダウンがきつく走りづらい地形であるために、各大学で実力のあるエース級の選手を配置することが多く、レースも華やかで見応えがある。2区のことを「エース区間」とも呼ぶそうである。



- ② さらにそのエース級の選手をすぐそばで見たいと思う観客が沿道に集まり、その場が華やかになるという意味があって『花の二区』と呼ばれている。…ということがわかりました。

箱根駅伝は出場すること自体がとても難しい非常に価値のある大会ですが、起伏に富んだコースそのものにも大きな魅力があると感じます。都心のビル群から市街地へ旧東海道を走り抜け、湘南の青い海や潮風を感じながら箱根路の温泉街を過ぎ、険しい山道を上りきると、眼下に広がる芦ノ湖、背景に映る青空と富士山…とその景観と新春の澄んだ空気感は、選手たちが力の限り走り切る姿と重なって、「今年も頑張ろう！」という気持ちが自然と湧いてくるのです。

さて、年頭にあたり、相手意識や人と関わる力を育むために、個性（他の人とちがった、その人特有の性質・性格・パーソナリティ）を「凸凹（でこぼこ）や凹凸（おうとつ）」に当てはめて考えたことをお伝えします。接している辺が多いほど、豊かな関係が芽生えて絆が深まると仮定しました。うまく向き合えないときは、相手のことを踏まえて自分の位置取りや動き方を変えてみたらどうでしょう。



今年度は特に、子供たちへ「自分がされて嫌なことは相手にしない」「自分がされてうれしくなったり、感謝したりすることを相手にしてみよう」と伝えてきました。これからも児童相互間の相手意識が高まり、思いやりの心や助け合いの風土を醸成するような学校教育を展開していきたいと思っております。

最後になりましたが、元日に石川県能登半島を襲った震度7の地震による甚大な被害が心配されます。被災地の方々へ心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。